

Ⅲ まとめ

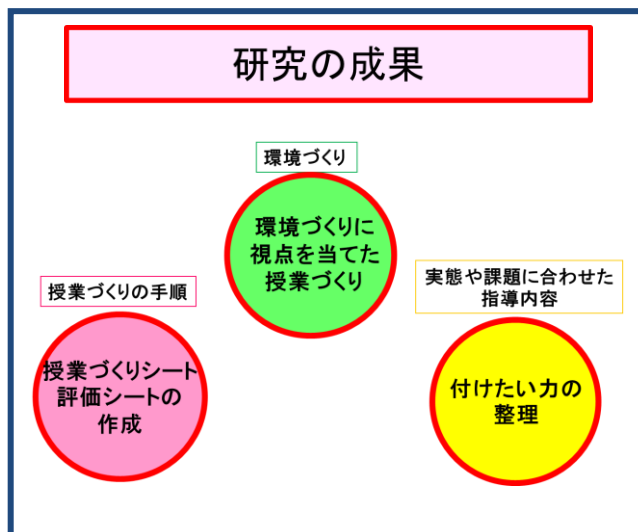
1 研究の成果

今年度の研究を、「環境づくり」、「授業づくりの手順」、「実態や課題に合わせた指導内容」の三つの視点から、それぞれ成果と課題、今後の展望を整理した。

研究の成果として、まず環境づくりについては、環境づくりを視点とした授業づくりに取り組んだことで、児童生徒の運動量が増加し、動きの質の向上が見られたことや、今年度取り組んだ環境づくりを、「環境づくりシート」(資料編 84 ページに掲載)に整理することができたことが挙げられる。

次に、授業づくりの手順については、授業づくりシートの作成を行い、指導目標や指導内容、環境づくりについて整理することができるようになったことや、評価シートの作成を行い、児童生徒の動きを細かく、そして客観的な視点をもって評価し、支援の改善を行ってきたことが挙げられる。

最後に、実態や課題に合わせた指導内容については、児童生徒の実態に合わせた付けたい力の整理を行い、階層化・類型化することができたことが挙げられる。

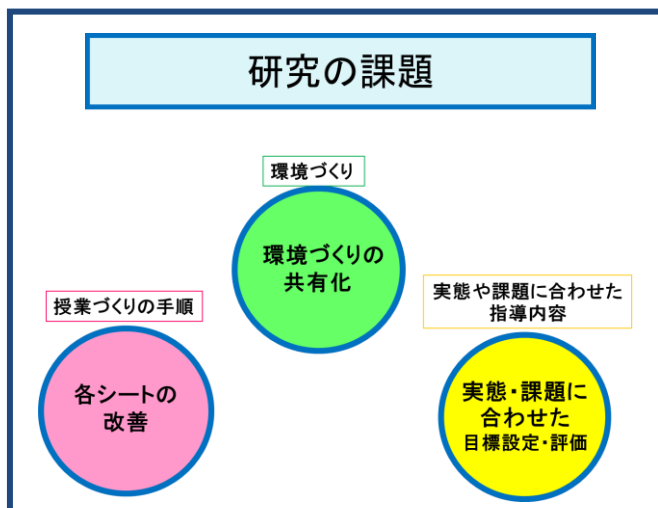


2 研究の課題

研究の課題として、環境づくりについては、学部研修会などで各学年・グループの環境づくりの取組を振り返ったり、検討したりしたものを、「環境づくりシート」に整理することはできたが、まだ学部や学年を越えて、学校全体で取組の共有化を図ることまでには至っていないことが挙げられる。

次に、授業づくりの手順については、授業づくりシートや評価シートを個別の指導計画と連動させ、日常的に活用することまでには至っていないことが大きな課題として挙げられる。各シートの書式も含めた改善を今後検討する必要がある。

最後に、実態・課題に合わせた指導内容では、「付けたい力」の整理を行うことはできたが、身体の発達の道筋に合わせた項目となっているかなど、更なる整理や見直しを行うことが必要である。児童生徒の実態や課題に合わせた目標設定や指導内容、評価について、学校として共通認識をもって取り組むことができるように更なる研修が必要である。



3 今後への展望

今年度の研究の成果と課題を受け、今後は成果をしっかりと生かしながら、課題について検討したり、改善したりしながら、研究の発展に向けて取り組んでいきたい。

まず、環境づくりについては、「環境づくりシート」の活用を行い、環境づくりの様々な工夫を共有化し、さらに工夫したり、精選したりして取り組んでいきたい。児童生徒が自ら課題を意識し、考えて取り組むことができるために、更なる環境づくりの工夫を行っていくことが必要である。

次に、授業づくりの手順については、今年度から取り組んだ授業づくりシートや評価シートは、授業を計画し、客観的な視点をもって評価するため、今後も継続して取り入れていきたいと考えている。日々の授業づくりに活用できるように、個別の指導計画とのつながりが分かりやすく、使いやすいシートにするなど、書式や活用の改善を図りたい。

最後に、実態や課題に合わせた指導内容では、現在、各学年・グループの指導内容を整理し、指導内容一覧表を作成している。児童生徒の実態や課題に合わせた指導と評価の一体化を図るためにも、発達段階や学部との系統性をもたせた指導内容を検討し、整理していくことが必要である。

今年度の研究実践をしっかり積み上げ、来年度へとつなげていきたいと思う。児童生徒はもちろん、教師も、「やってみたい、やってみよう、もっとやりたい」と思える授業づくりを行えるような研究を目指していきたい。

